特集 学生の研究活動報告 - 国内学会大会・国際会議参加記 27

RUBeC 演習に参加して

西浜正人 Naoto NISHIHAMA 情報メディア学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は 2017 年 8 月 19 日~9 月 4 日の期間,アメリカ・カリフォルニア州バークレーにある Jodo Shinsyu Center にて行われた RUBeC 演習に参加しました.本演習では,テクニカルライティング,プレゼンテーションの講義を受け,大学や企業の訪問も行いました.

2. 本プログラムへの参加動機

大学院に進学し、学会や研究会等で自分の研究を 発表していく中で、わかりやすい文章を書く技術や 自分の考えをわかりやすく伝える必要があります。 そして、国際会議等ではこれらを英語で行わなけれ ばなりません。そこで本プログラムに参加し、自分 のライティング、プレゼンテーションの能力を高め るきっかけになればと考えました。

また、カリフォルニア州にある大学や企業を訪問する機会もあるということで、そのような経験をしたことがなく魅力的だと感じたので参加したいと考えました.

3. 授業内容

授業は8日間にわたって行われ、午前中はテクニカルライティング、午後はプレゼンテーションのクラスを受けました.

3.1 テクニカルライティング

この授業では主に、英語で文章を書く際に見落とすことが多い部分について学びました。例えば、a や the などの冠詞の使い分けはロジカルに考えて書くことが出来ると気づきました。これまでは英語でアカデミックな文章を書く際も、あまり冠詞を意識



図1 テクニカルライティング授業風景

して書いてきませんでした。なんとなく適当に書いても伝わるだろうと考えていました。しかし、ネイティブスピーカーからするとアカデミックな文章には適さないと学びました。

他にも時制や動詞の変形,接続詞についても学びました.ネイティブスピーカーではない私たちはこれらを何度も注意深く確認し,初めて良い文章を書くことができることを痛感しました.

3.2 プレゼンテーション

この授業では、実際に発表をして、発音やアクセント、ジェスチャー、視線など良いプレゼンテーションを行うために必要な要素1つ1つにフィードバックをもらいました。

私にとってどれも難しく感じるものでしたが,特 に発音に苦労しました.普段の生活では英語で話す



図2 プレゼンテーション授業風景

ことがないためか、講師の方が言った発音を真似しても思うように発音できないことが多く、もっと練習が必要だと感じました。また、ネイティブスピーカーからすると、適切なところで区切りながら話さないと同じことを言っていても意味が伝わらないことにも気づけました。これももっと練習が必要だと感じました。

4. 大学訪問

今回は UC Davis で地理学を専攻している学部 4 年の方にキャンパスの中を歩きながら、建物や大学の特徴などについて話していただきました。また、工学部の説明会でもキャンパスの特徴について少しお話がありました。

UC Davis で特徴的だと感じたことは、他学部とのコラボレーションを行っているということです。また、ものづくりを体験できる施設や芸術を鑑賞する劇場がキャンパス内にありました。それらから世の中の新しい課題や新しい問題解決方法を見つけるためには、自分の分野に留まらず視野を広げ、専攻の異なる人同士の交流が重要だと感じました。

キャンパスがとても広大なため、学内ではおもに 自転車で移動し、自転車を購入したり、修理したり する場所がありました。さらに、大学院生は1人暮 らしをする人もいるみたいですが、学生寮など学生 が生活するためのサポートも充実していると感じま した。

5. 企業訪問

今回は世界最大規模の電子計測器の開発,製造等を 行う Keysight に訪問し、サンタローザの本社で社 員の方の説明してもらいながら、様々な部門の工場 を見学した.

まず、製品の性能テストをするための施設に行き



図3 企業訪問での集合写真

ました. ここでは, 0度から55度の範囲で性能実験をします. なぜなら, 実際に使う環境よりも厳しい条件でテストすることで, 製品の精度や品質の向上につながるからです. また, テストを6つのユニットに分割することで効率化を図っていました.

次に、製品にするためのテストを行う施設に行きました。ここではかなり厳しい条件でテストを行っていました。具体的には、温度は-70度から85度、湿度は20%から95%などで行われているようです。また、様々な角度や高さから落としても壊れないかのチェックも行われていました。その後、金属の酸化を防ぐためにコーティングする化学的な処理をする施設も見学しました。

6. おわりに

今回の RUBeC 演習ではテクニカルライティングとプレゼンテーションの授業を通して、これからの研究活動に必要な英語力を身につけるきっかけになったと感じています。また、アメリカでのホームステイを通して、異なる文化や生活様式の人への理解が深まったと感じています。このプログラムでの経験をこれからの活動に生かしていきたいと思います。